

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次 2年次	後期 前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	2	必修	縄田 也千	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
<p>○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>（1）当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>（2）当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標：1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>	

【全体目標及び概要】	
図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を身に付ける	
【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
（1）図画工作科教材研究の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。 到達目標：1）学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	(1)-1
2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	(1)-2
3）図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	(1)-3
4）図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	(1)-4
（2）図画工作の指導方法と授業方針を理解している 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けている。 到達目標：1）子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	(2)-1
2）図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。	(2)-2
3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	(2)-3
4）模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けている。	(2)-4

回数	図画工作科指導法 授業内容【1年次後期】【縄田】	到達目標の番号	コアカリキュラム 対応項目
1	図画工作科教材研究とはどんな授業か、図画工作は何のためにあるのか、その目標や内容を理解する。	(1)-1) (2)-2)	(1)-1) (2)-2)
2	低学年～中学年の教科書を見ながら、低学年～中学年の学習内容と特徴を学ぶ	(1)-1) (1)-2)	(1)-1) (1)-2)
3	中学年～高学年の教科書を見ながら、中学年～高学年の学習内容と特徴を学ぶ	(1)-1) (1)-2)	(1)-1) (1)-2)
4	造形遊びの意義とその内容について実践し、その意義を理解する。	(2)-1)	(2)-1)
5	図画工作における絵画・デザイン・工芸・彫刻の各領域の内容を理解し、図画工作教材との関連を理解する。	(1)-4) (2)-1)	(1)-4) (2)-1)
6	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ①(クレヨン・コンテ・マーカー・色鉛筆で線遊びをする)	(1)-2) (2)-2)	(1)-2) (2)-2)
7	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ②(竹ペン・墨で観察画を描く「にぼし」)	(1)-2) (2)-2)	(1)-2) (2)-2)
8	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ③(透明水彩・ポスターカラーでパチックなどを体験する。)	(1)-2) (2)-2)	(1)-2) (2)-2)
9	「コラージュ」(モダンテクニック)の歴史(美術史)を映像資料を通して学授業を想定しながら雑誌、新聞紙をちぎり、「見立て遊び」を経験する。	(1)-4) (2)-2)	(1)-4) (2)-2)
10	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら枯れ葉で「見立て遊び」を経験する。	(2)-2) (2)-3)	(2)-2) (2)-3)
11	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら雑誌から「同じ色集め」を経験する。(色彩学)	(1)-2) (2)-3)	(1)-2) (2)-3)
12	コラージュ作品を並べ、先生、児童になってお互いの作品の良いところを見つけて評価することができる。	(1)-3) (1)-4)	(1)-3) (1)-4)
13	ICT 機器を活用し、画像や映像をもとにしたイメージトレーニングを通じて、発想力を身につける。	(2)-2) (2)-3)	(2)-2) (2)-3)
14	好きな物や人形を好きな場所に配置し、デジカメで撮影し「物語」を作ることができる。	(2)-2) (2)-3)	(2)-2) (2)-3)
15	9～14までの教材から好きなものを選んで指導案を書いてみる。(後期の模擬授業にむけて)	(2)-1) (2)-2) (2)-3)	(2)-1) (2)-2) (2)-3)
定期試験	実施しない		

回数	図画工作科指導法 授業内容【2年次前期】【縄田】	到達目標の番号	コアカリキュラム 対応項目
16	模擬授業の実践①各自の作成した低学年の指導案を元にして実践し、ビデオカメラに録画する。	(2)-2) (2)-3) (2)-4)	(2)-2) (2)-3) (2)-4)
17	模擬授業の実践②各自の作成した中学年、高学年の指導案を元にして実践し、ビデオカメラに録画する。	(2)-2) (2)-3) (2)-4)	(2)-2) (2)-3) (2)-4)
18	絵巻物の作成(鳥獣人物戯画)日本の美術への理解を深め、授業に取り入れる事ができる。	(1)-4) (2)-1)	(1)-4) (2)-1)
19	キット教材の研究 特質や問題点を認識し、授業計画の中に取り込むことができる。	(2)-1) (2)-2)	(2)-1) (2)-2)
20	キット教材の制作 ワイヤーアート、アナモルフォーシスシートの作成方法を理解し、作ることができる。	(2)-1) (2)-2)	(2)-1) (2)-2)
21	版画の研究① 作品の画像をもとに版画の種類を各技法の特徴と用具を学ぶ。	(2)-2)	(2)-2)
22	版画の研究② 映像資料をもとにスチレン版画、回転版画の制作手順を知る。 (低学年)	(2)-2)	(2)-2)
23	版画の研究③ 映像資料をもとに紙版画、木版画の制作手順を知る。 (中学年・高学年)	(2)-2)	(2)-2)

回数	図画工作科指導法 授業内容【2年次前期】【縄田】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応項目
24	立体に表すとは？粘土、紙、木、廃材を使った立体作品の鑑賞を通じて、立体造形のたのしさと意義を学ぶ。	(2)-2)	(2)-2)
25	粘土の種類と特質を知り、使いこなせるようになる。(本物そっくり)	(2)-2)	(2)-2)
26	紙の種類と特質を知り、使いこなせるようになる。(飛び出すカード、六角返し他)	(2)-2)	(2)-2)
27	牛乳パック、コロッコで「私たちの町」を作って共同作品のたのしさを味わい、その意義を学ぶ。	(2)-2)	(2)-2)
28	モダンテクニック①マーブリングやデカルコマニー、スクラッチステンシル、ドリッピング、スクラッチ等で「感想画」を描く。	(1)-4) (2)-2)	(1)-4) (2)-2)
29	モダンテクニック②マーブリングやデカルコマニー、スクラッチステンシル、ドリッピング、スクラッチ等で「空想画」を描く	(1)-4) (2)-2)	(1)-4) (2)-2)
30	1年間の授業で制作したものと模擬授業の録画映像を振り返り、実習に活用できるようにする。	(2)-2) (2)-3) (2)-4)	(2)-2) (2)-3) (2)-4)
定期試験	実施しない		
成績評価方法	毎回の学習状況(意欲・感性・態度)30点 作品提出(完成度・技能・発想力)50点 レポート(理解度、思考力)20点		
テキストおよび参考文献	テキスト：『小学校指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編(平成29年7月 文部科学省)』日本文教出版 『図画工作科教材研究』山口短期大学		
メッセージなど	図画工作は、子どもの「心」を育てる大切な科目で、アクティブラーニングそのものといえます。子どもの素直な表現を認め、評価できる教師を育成します。		

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	課題レポート (知識・理解) 授業	5%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	課題レポート (知識・理解)	5%
(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	間違いはいくつかある最低限の基本を理解、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	課題レポート (知識・理解)	5%
(1)-4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、教材研究を十分に活用した作品制作ができる。	大きな間違いがなく理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	間違いはいくつかあるが、基本を理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	全く理解できない。教材研究を活用した作品制作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の教材研究(意欲、関心、態度) 各作品提出(完成度、技能、発想力) 用具の使用 方法(知識、使用方法の理解) 指導案に合う試作品の作成(応用力) 	20%
(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	ほぼ完璧に理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	間違いはいくつかあるが基本を理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	全く理解できていない。学年や発達を視野に入れた教材選択ができない。		20%
(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。	ほぼ完璧に教材、用具を効果的に活用した作品制作ができている。	大きな間違いがなく教材、用具を活用した作品制作ができている。	間違いは少しあるが教材、用具を活用した作品制作ができている。	全く教材、用具を活用した作品制作ができない。		20%
(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。	大きな間違いがなく指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。	間違いはいくつかあるが、指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。	全く指導案を書けない。指導案に合った試作品の作成ができない。		20%
(2)-4) 模擬授業の実施との振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けている。	ほぼ完璧な模擬授業ができる。	大きな間違いがなく、模擬授業ができる。	間違いはいくつかあるが、模擬授業ができる。	全く模擬授業ができない。	・模擬授業 課題レポート	5%